社会科学習指導案（歴史的分野）

日　時　平成27年６月５日（金）　第２校時
対　象　１年２組(男子20名　女子20名　計40名)
指導者　教　諭　　佐　伯　暁　仁

１　単　元　　「古代までの日本」

２　単元の考察

本単元は，日本の誕生，律令制による中央集権国家の確立，そして，藤原氏が政権を握る貴族政治までの歴史を学習する。日本列島の誕生以降，日本は東アジアとの交流を行い，多くの技術や文化を学び，中国や朝鮮半島の情勢の影響を受けながら，大王を中心とした中央集権国家を目指してきた。そして，蘇我馬子，聖徳太子(厩戸皇子)の時代には，隋の制度にならって，律令制度としての基盤を整え始める。さらに，大化の改新や白村江の戦い，壬申の乱などを経て天皇の権限が強化され，律令国家が成立することになる。また，約250年にわたって送られた遣隋使や遣唐使は，大陸の進んだ文化を取り入れ，飛鳥，天平文化などに影響を及ぼした。しかし，９世紀後半になると遣唐使は国内外の情勢の変化により廃止され，中央では天皇に代わり，藤原氏などの貴族が政治の実権を握っていくようになる。

生徒は，中学校生活にも慣れ，意欲的に学習に取り組んでいる。小学校において，大陸文化の摂取，大化の改新，大仏造営の３つの歴史的事象を具体的に調べることを通して，天皇を中心とした政治が確立されたこと，また，貴族の生活を具体的に調べることを通して，日本風の文化が起こったことを学習している。アンケートによれば，小学校６年生で日本の歴史を学習していることもあり，歴史的分野に関心をもつ生徒が31名(78%)と多い。また，原始から現代までの時代の中で最も関心がある時代としては，「原始」４名(10%)，「古代」３名(７%)，「中世」５名(13%)，「近世」13名(32%)，「近代」７名(18%)，「現代」８名(20%)と答えており，「古代」については，関心が低いことが分かった。

指導に当たっては，日本の古代に関する最新の学説も適宜採用しながら，単元全体の指導計画を組み立てる。まず，日本列島の誕生から農耕が広まる弥生時代までの歴史を，考古学の発見による最新のデータを基に，生徒に読み取らせ，自分の言葉でまとめさせる。次に，日本各地に国が成立し，最終的には大和政権によって，日本が統一されるまでの過程を，東アジアの動きと関連させながら，理解させたい。そして，遣唐使派遣の理由の１つである律令国家成立の過程に，国内外の情勢から迫っていく。さらに，東アジアの中の日本という視点を持たせていくことによって，この時代の日本が目指そうとしていた姿が見えてくると考えた。その際に，生徒の既習知識を考慮しながら，日本書紀などの文献資料や実物資料等を提示し，生徒の実態に応じた学習活動にも取り組ませる。この単元の内容は，まだ解明されていない部分も多いため，最新の情報等も授業の中に取り入れながら，現在も研究が進められていることに意識をもたせ，歴史を学ぶ楽しさを感じさせていきたい。

3　単元の学習内容の構造化

概念的な知識		事実的な知識
原始・古代の特色を大きくとらえること	原始・古代のイメージについてまとめること	○原始・古代のイメージ　○小学校での学習
	人類が誕生し，生活技術の発達などを通して，文明がおこったこと	
	人類が誕生し，自然環境に対応しながら進化していったこと	○猿人　○原人　○新人 ○旧石器時代　○打製石器 ○新石器時代　○磨製石器
	古代文明が世界の各地に誕生し，文明が発達したこと	○エジプト文明　○インダス文明 ○メソポタミア文明
	中国文明がおこり，しだいに国家が形成されていったこと	○殷　○周　○秦　○漢 ○儒教　○シルクロード
	古代文明が誕生した地域で，宗教が生まれたこと	○キリスト教　○イスラム教 ○仏教　○シャカ
	自然環境の変化に対応しながら縄文文化が生まれたこと	○縄文土器　○縄文時代 ○たて穴住居　○貝塚
	稲作が広まり，やがて各地に国が形成されていったこと	○弥生土器　○弥生時代 ○邪馬台国　○卑弥呼
	大和政権が成立し，東アジアの国々と交流をもったこと	○大和政権　○古墳時代 ○古墳　○渡来人
	大陸の影響を受けながら，律令国家の制度が整えられ，天皇や貴族による政治が行われたこと	
	聖徳太子(厩戸皇子)と蘇我馬子により律令国家の礎が築かれたこと	○十七条の憲法　○冠位十二階 ○小野妹子　○飛鳥文化
	大化の改新により，天皇を中心とした政治が始まったこと	○大化の改新　○中大兄皇子 ○中臣鎌足
	壬申の乱以降，律令国家の制度が確立されたこと	○壬申の乱　○白村江の戦い ○平城京　○大宝律令
	奈良時代の人々が，律令国家のもと，多くの税を負担したこと	○口分田　○班田収授法 ○荘園　○墾田永年私財法
	唐や仏教の影響を受けた，国際色豊かな文化が栄えたこと	○遣唐使　○聖武天皇 ○天平文化　○東大寺
	桓武天皇により，律令制の立て直しが図られたこと	○桓武天皇　○平安京 ○平安時代　○菅原道真
	藤原氏を中心とする貴族政治が行われたとともに，文化の国風化が進んだこと	○藤原道長　○摂関政治 ○国風文化　○仮名文字 ○浄土信仰　○古今和歌集
	原始・古代の特色についてまとめること	○原始・古代の特色　○学習のまとめ

取り扱う中単元

4　単元の目標

(1)　日本における律令国家成立の過程について関心を高めさせ，意欲的に追究させる。（社会的事象への関心・意欲・態度）

(2)　東アジアの情勢が古代の日本の政治に与えた影響について，多面的・多角的に考察させ，自分の言葉で表現させる。（社会的な思考・判断・表現）

(3)　古代の人々の生活に関する具体的な資料を読み取らせ，ワークシートにまとめさせる。（資料活用の技能）

(4)　日本における律令国家成立の過程や大陸から移住してきた人々が日本に与えた影響について関連付けて理解させ，その知識を身に付けさせる。（社会的事象についての知識・理解）

5　単元の指導計画と評価の重点（全７時間）── 評価（授業中）── 評価（授業後）

主な評価場面と学習内容（基本的な知識）	時間	評価規準				主な言語活動の具体的場面
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
聖徳太子(厩戸皇子)の政治 聖徳太子(厩戸皇子)の政治について考察する場面 ○　十七条の憲法　○　冠位十二階 ○　小野妹子　　○　飛鳥文化	1		聖徳太子(厩戸皇子)が摂政になった理由について，資料を基に考察し，適切に表現している。【ノート】		聖徳太子(厩戸皇子)の政治の内容や目的を理解し，その知識を身に付けている。【ノート】	《読み取り・解釈》 聖徳太子(厩戸皇子)の業績について，当時の国内外の情勢を踏まえながら，読み取り，解釈する場面
大化の改新 大化の改新の意義について評価する場面 ○　大化の改新　○　中大兄皇子 ○　中臣鎌足	本時		７世紀前後の東アジアの情勢と関連付けながら，大化の改新が起きた理由について資料を基に考察し，適切に表現している。【ノート】	大化の改新が起きた理由について，資料から読み取ったり，図表にまとめたりしている。【ワークシート】		《説　明》 当時の国内外の情勢を踏まえながら，蘇我氏を評価し，その理由について説明する場面
律令国家の成立と平城京 律令国家が成立する過程について理解する場面 ○　壬申の乱　○　白村江の戦い ○　平城京　　○　大宝律令	1	律令国家として成立する過程について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。【観察】		702年の遣唐使が日本と名乗った理由について，資料から読み取ったり，図表などにまとめたりしている。【ノート】		《説　明》 律令国家が成立する過程について，東アジアの情勢と関連付けながら，説明する場面
奈良時代の人々のくらし 奈良時代の人々のくらしについて理解する場面 ○　口分田　　○　班田収授法 ○　荘園　　○　墾田永年私財法	1	奈良時代の人々のくらしについて関心を高め，意欲的に追究しようとしている。【観察】		奈良時代の人々のくらしの特色について，資料から読み取ったり，ノートにまとめたりしている。【ノート】		《説　明》 奈良時代の遺物等から，当時の人々の生活の様子について説明する場面
天平文化 天平文化を代表する遺物から，その特色を考察する場面 ○　遣唐使　　○　聖武天皇 ○　天平文化　　○　東大寺	1	天平文化の特色について関心を高め，意欲的に追究しようとしている。【観察】			天平文化の特色を理解し，その知識を身に付けている。【ノート】	《読み取り・解釈》 天平文化を代表する遺物や資料等から，その特色について読み取り，解釈する場面
平安京と東アジアの変化 中国の歴史書から日本と東アジアの交流を考察する場面 ○　桓武天皇　　○　平安京 ○　平安時代　　○　菅原道真	1		遣唐使が廃止された理由について考察し，適切に表現している。【ノート】	桓武天皇が平安京に都を移した理由について，資料から読み取ったり，ノートにまとめたりしている。【ノート】		《説　明》 桓武天皇が平安京に都を移した理由について，説明する場面
摂関政治と文化の国風化 日本の国家が形成されていく過程について理解する場面 ○　藤原道長　　○　摂関政治 ○　国風文化　　○　仮名文字 ○　浄土信仰　　○　古今和歌集	1			天皇中心から貴族への政権の推移について，系図などから読み取ったり，図表などにまとめたりしている。【ワークシート】	国風文化の特色を理解し，その知識を身に付けている。【ノート】	《読み取り・解釈》 東アジアの情勢と関連付けながら，摂関政治の形成過程について読み取り，解釈する場面
全７時間における各評価観点の配当時数		③	3	3＋②	1＋②	○数字は，授業後に行う評価の回数を表す。

6　本時の実際（２／７）

(1)　主　　題　　「大化の改新」

(2)　本時の目標

ア　大化の改新が起きた理由について，資料から読み取らせたり，図表にまとめさせたりする。（資料活用の技能）

イ　７世紀前後の東アジアの情勢と関連付けながら，大化の改新が起きた理由について資料を基に考察させ，適切に表現させる。（社会的な思考・判断・表現）

(3)　主題の考察

本単元では，律令国家が成立するまでの過程を，蘇我馬子，蝦夷，入鹿の３代の動きを中心にして学習する。蘇我氏については，その評価が毀誉褒貶分かれるところであるが，それは日本書紀の記述によるところが大きい。しかし，最近の学説によれば，大化の改新以前の様々な改革において，聖徳太子(厩戸皇子)とともに蘇我馬子の影響が大きかったとされている。さらに，東アジアにおいては，中国では王朝が隋から唐に変わり，朝鮮半島では百済，新羅，高句麗の３国で国の存亡に関わるような重大なできごとが起きるという状況下にあった。そのような国際情勢において，蘇我氏一族が進めてきた政策は，その後の律令国家が成立する上でも，重要な政策だったことも分かりつつある。さらに，最近の学説では，聖徳太子(厩戸皇子)の実在性も疑われつつあり，今後の研究が待たれるところである。

生徒は，アンケートによれば，古代(古墳，飛鳥，奈良，平安時代)についての知識として，聖徳太子(厩戸皇子)，中大兄皇子，聖武天皇，藤原道長などの人物については説明ができていたが，蘇我馬子について説明ができた生徒は13名(33%)にとどまった。また，聖徳太子(厩戸皇子)についての知識として，冠位十二階を35名(88%)，十七条の憲法を33名(83%)，法隆寺の建立を22名(55%)が挙げており，その業績については概ね理解できているようである。しかし，聖徳太子(厩戸皇子)と蘇我氏との関係や，それらの政策を行った背景については理解しておらず，古代についての知識は断片的なものであることが分かった。

指導に当たっては，導入で小学校での既習事項を基に，意思表示カードを利用して，蘇我氏について評価させる。この意思表示カードについては，本時を通して用いることで，蘇我氏に対する評価の変容を見とれるようにする。展開では，物部氏と蘇我氏との対立を取り上げ，蘇我氏が仏教を導入することによって，より渡来人との関係を深めていこうとしたことに気付かせる。また，前時に学習した聖徳太子(厩戸皇子)が行った取組から，遣隋使の派遣について，資料を基にして，蘇我氏の視点から考察させる。さらに，聖徳太子(厩戸皇子)の死後，蘇我氏がどのような政治を行ったのかを，時系列で確認させる。特に，大化の改新以前の中国や朝鮮半島における情勢の変化について，為政者としてどのように対応すべきかを，自分の言葉で表させたい。そして，「なぜ，大化の改新が起きたのか」という学習課題に迫る中で，蘇我氏が取り組んできた政策を現在の視点から再評価すると，大化の改新以降，中大兄皇子や中臣鎌足らが進めた内容とほぼ重なっており，律令国家の礎を蘇我氏が聖徳太子と協力しながら築いてきたことに気付かせたい。この時代の歴史はまだ明らかになっていない部分も多いが，この単元を通して，歴史を多面的・多角的に見る態度を培っていきたい。

(4) 研究に関する指導の工夫

【手だて①　社会参画を意識した指導の工夫】

社会参画を意識しながら，大化の改新直前の国内外の情勢に対する為政者としての対応について，具体的な資料を基にして，主張を立てて，論拠を考察させる。

【手だて②　社会科における傾聴に重点を置いた指導の工夫】

意思表示カードで表した蘇我氏に対しての評価を，傾聴を通して，よりよい意思決定にさせる。

(5) 本時の展開

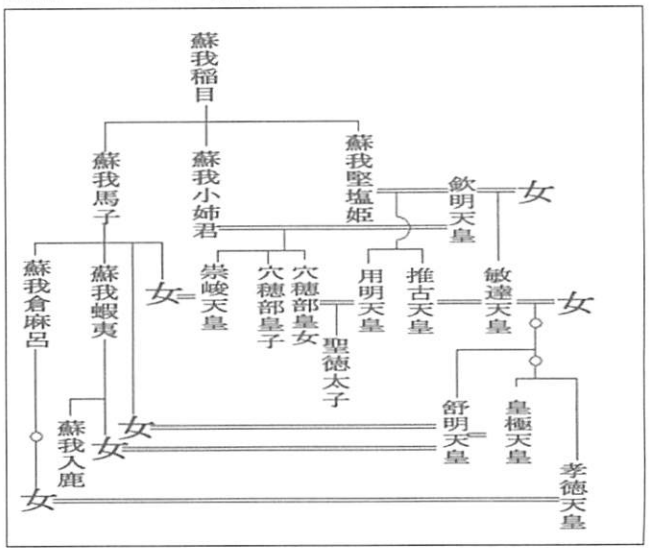
主な発問や指示	時間	学習活動	指導上の留意点	情報提示の方法と内容
〈問題把握〉 ○ あなたは，蘇我氏についてどのように評価しますか。	5分	1 蘇我氏に対する自己の考えを，意思表示カードで表す。 2 学習課題を設定する。	1 小学校での既習知識を生かしながら，蘇我氏について評価させる。【手だて②】 2 蘇我氏が活躍していた飛鳥時代に関心をもたせながら，学習課題を設定させる。	資料 聖徳太子(厩戸皇子)と伝えられる肖像画
なぜ，大化の改新は起きたのだろうか。				
〈本質究明〉 ○ なぜ，物部氏と蘇我氏は対立したのだろうか。	6分	3 物部氏と蘇我氏が対立した理由について，政治と宗教の２つの視点から考察し，発表する。	3 物部氏と蘇我氏の対立には，渡来人の存在が大きく関わっていることに気付かせる。	資料 皇室と蘇我氏の家系図
○ 遣隋使は，なぜ派遣されたのだろうか。	7分	4 遣隋使が派遣された理由について，資料を基に考察し，発表する。	4 聖徳太子(厩戸皇子)と蘇我馬子が，新羅遠征後，東アジアでの立場を有利にするため，遣隋使を送ったことに気付かせる。	
○ 聖徳太子(厩戸皇子)の死後，何が起きたのだろうか。	8分	5 聖徳太子(厩戸皇子)の死後，国内ではどのような政治が行われたのかについて，資料を基に考察し，発表する。	5 蘇我氏が，後の律令国家成立につながるような様々な政策に取り組んだことに気付かせる。	資料 推古天皇の言葉
○ 聖徳太子(厩戸皇子)の死後，国内外の情勢はどうなったのだろうか。	8分	6 聖徳太子(厩戸皇子)の死後，国内外の情勢を表した資料を基に考察し，自己の主張をまとめ，発表する。 【社会的な思考・判断・表現】 ７世紀前後の東アジアの情勢と関連付けながら，大化の改新が起きた理由について資料を基に考察し，適切に表現している。	6 隋に代わり，唐が中国を統一する一方で，朝鮮半島でも各国の情勢が大きく動いていることに気付かせる。【手だて①】	資料 ７世紀初めの東アジアの情勢
○ なぜ，大化の改新は起きたのだろうか。	8分	7 大化の改新が始まった理由について，資料を基に考察し，発表する。 【資料活用の技能】 大化の改新が起きた理由について，資料から読み取ったり，図表にまとめたりしている。	7 蘇我氏による山背大兄王の暗殺が，大化の改新の始まりにつながったことに気付かせる。【手だて①】	資料 皇室と蘇我氏の家系図
〈洞　察〉 ○ 蘇我氏について，授業を通して再評価してみよう。	8分	8 本時を通して，蘇我氏について意思表示カードで再評価して，その理由について発表する。	8 古代の歴史については，現在も様々な新しい発見がされていて，歴史には様々な見方・考え方があることを理解させる。【手だて②】	資料 石舞台古墳

□は評価場面，（　）は授業中における評価観点，（- - -）は授業後における評価観点

⑹　主な資料

資料１　聖徳太子（厩戸皇子）と伝えられる肖像画

資料２　皇室と蘇我氏の家系図



資料３　推古天皇の言葉

624年，馬子が葛城県の支配権を望んだ時，女帝は，「あなたは私の叔父ではあるが，だからといって，公の土地を私人に譲ってしまっては，後世から愚かな女と評され，あなたもまた不忠だと謗られよう」と言って，この要求を拒絶したという。

『謎の豪族　蘇我氏　文藝春秋』より

資料４　７世紀初めの東アジアの情勢（地図）

資料５　７世紀初めの東アジアの情勢（年表）

西暦	国名	できごと
618	唐	唐の建国
622	日本	聖徳太子死去
626	日本	蘇我馬子死去
628	日本	推古天皇死去

【高句麗】641年，大臣の泉蓋蘇文が王宮に乱入し，国王大臣以下百余名を殺害し，政権を掌握する。
【百済】640年，義慈王が即位し，翌年には，新羅を攻撃し，新羅南西の40の城を奪取する。さらに，高句麗と手を結び，新羅と唐の連絡路を絶つ。
【新羅】642年，百済と高句麗の攻撃に対して劣勢のため，唐に援軍を求めるが，女帝の善徳女王に代わって，唐の王族を新羅王として迎えるように要求される。

『謎の豪族　蘇我氏　文藝春秋』より

資料６　石舞台古墳